

第3回 能登地区神経・筋難病ネットワーク 地域連携の会報告

医療社会事業専門員 近藤 洋平

平成29年9月23日(土)恵寿総合病院にて、第3回能登地区神経・筋難病ネットワーク地域連携の会が開催されました。

当会は昨年度より、能登中部の恵寿総合病院、公立能登総合病院、七尾病院それぞれの神経内科が主体となり実施しているもので、医師、歯科医師、看護師、介護士、ヘルパー、リハビリスタッフ、薬剤師、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーなどの多職種を対象とし、神経筋難病患者の医療・介護の向上のためのネットワークをつくる目的で開催されているものです。



一般演題1を、恵寿総合病院地域連携課 宮田琴江MSWより「地域包括ケア病棟でのレスパイト入院～利用と現状～」と題して行われました。レスパイト入院とは、主に家族(介護者)の休養のための入院形態であり、国の政策として在宅生活の推進が行われている現在、今後ますます在宅生活を継続していく上で重要な役割を果たしていくのではないかと思います(※七尾病院でも主に神経筋難病の方のレスパイト入院の受け入れを行っています)。

一般演題2を、恵寿総合病院 中村秀哉理学療法士より「訪問リハビリテーションの実践について～パーキンソン病の在宅生活を支える～」と題して、訪問リハビリの取り組みに関して事例を通してお話していただきました。本人の心身状態、生活状況に合わせて、訪問時間を変更されるなど、きめ細やかに介入されている点が伺えました。

レクチャーは、恵寿総合病院 神経内科科長 木元一仁先生より「脊髄小脳変性症と多系統萎縮症について」と題して、疾患の特徴や進行に伴う在宅生活の困難さへの対処や遺伝に関する倫理観の問題など、詳しくお話し頂きました。



講演会終了後のアンケートでは、「難病の方の支援についてもっと知りたい。」「また参加させていただきたい。」などの声を多数いただきました。第4回は来年春季に開催予定です。今後も神経筋難病の方を支援する皆様のお役に立てるような情報を発信していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。